



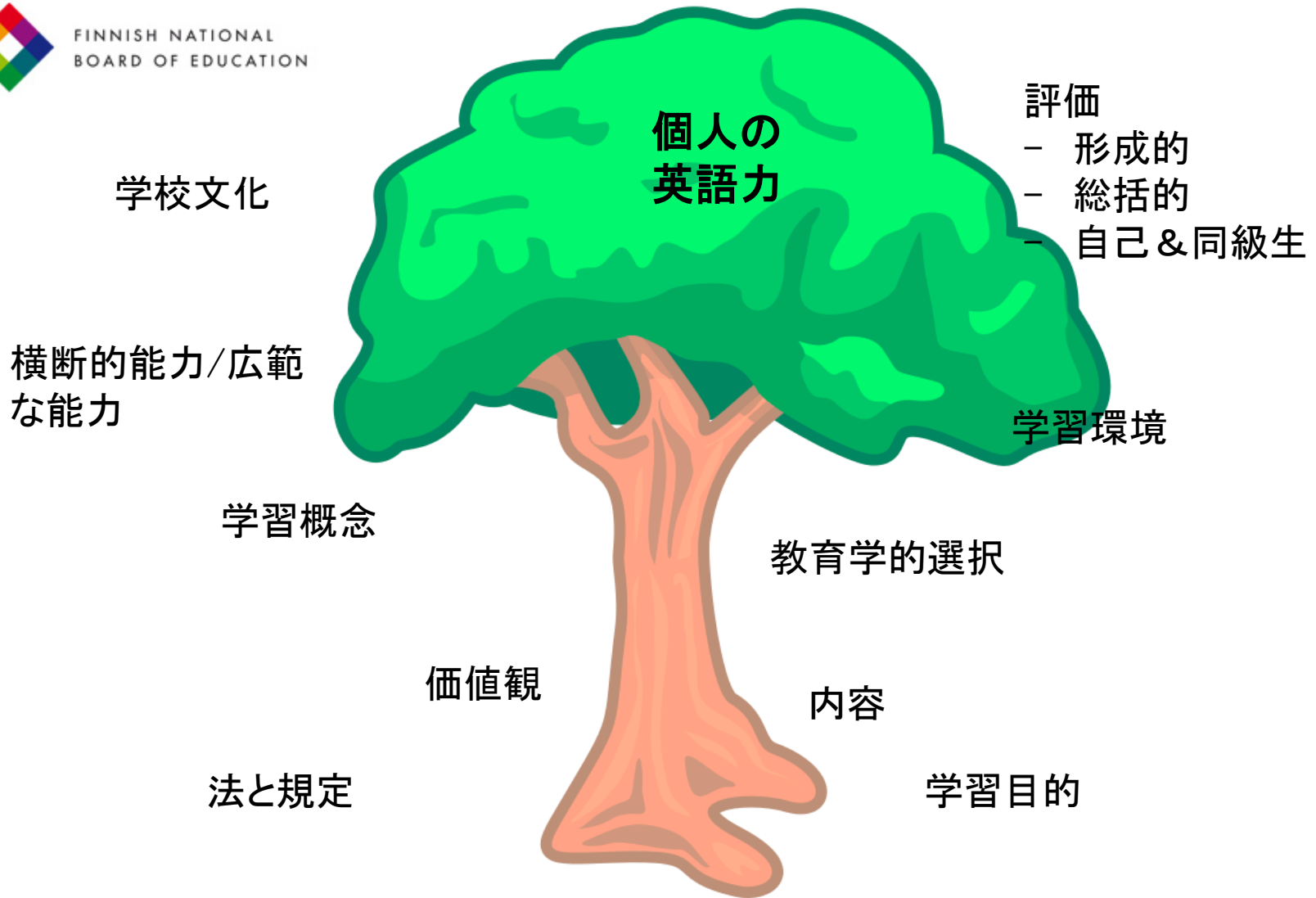
言語の学びと教えの変容 ーフィンランドにおける基礎教育 コア・カリキュラムの改善

フィンランド国家教育委員会
参事
アヌ・ハルバリ



現在行われている国レベルのカリキュラム改革

- ◆ 2016年8月には基礎教育段階への新たなコアカリキュラムを導入
- ◆ 国のガイドラインには、地方での裁量の余地
 - 研究者、教員養成大学、関係団体(地方自治体、保護者、企業、労働組合、学生自治会等)が協力して策定
 - トップダウン・ボトムアップのプロセス→策定内容理解の共有
- ◆ 各地域への導入は、学校・教員・生徒、さらにはある程度までそのコミュニティ全体に影響



基礎教育が意図する言語学習の基盤



フィンランドにおける英語の概要

- ◆ 90%を超える生徒の第一外国語
- ◆ 広く使われている言語だが、第二言語ではない
- ◆ 目標：基礎教育終了時にCEFRレベルB1.1
(2016年8月以降)
- ◆ 少なくとも3分の2の生徒はレベルB1.1またはそれ以上に(2013年 *Härmälä et al*)、ただし...
- ◆ 特に男子生徒はインフォーマルで学習をしている場合が多い



教師は英語教授学習の目標を実現する(1)

- ◆ 言語教育：言語学習は生涯にわたるプロセスー
「全ての教師が語学教師である」
- ◆ 文化の多様性や言葉に対する認識の涵養：言語や文化的アイデンティティーが重層的な社会、言葉のステータス、グローバルな英語、言語学の理論
- ◆ 言語学習スキル：個人の目標設定、学習と協同の反映、言語学習戦略の開発



教師は英語教授学習の目標を実現する(2)

◆ 進化する言語の熟達度

- 対話のスキル: 建設的/前向きな言語の使用、イニシアチブをとること、コミュニケーションにおける文化的妥当性、目的に応じたネゴシエーション、調停や仲介
- 文章の読解力(会話含む): 様々なメディアを通じて提供される多方面の、意味ある文章の読み取り/聞き取り
- 文章の構成力(会話含む): 目的やジャンルに応じた語彙や構造や発音/表現を用い、意図が正確に伝わる文章の作成



2016年カリキュラム改革と英語の課題

- ◆ 問い続けなければいけないこと:「英語を教え、学ぶことの目的は何なのか?」「どの英語なのか?」「誰のための英語なのか?」
- ◆ 多民族の集団
- ◆ 情報通信技術 (ICT)
- ◆ 評価
- ◆ これまで学んだ教訓



...そして取組は続く...

ありがとうございました！

アヌ・ハルバリ
anu.halvari@oph.fi



イラスト: マリアンヌ・マルクス(ラーヘ高等学校)